

牛沢カタクリ自生地について

牛沢カタクリ自生地は、秩父山地へと連なる加治丘陵の東端にある約6,600㎡の雑木林です。

この雑木林の西側部分約2,700㎡に自生するカタクリは、例年3月中旬からほころび始め、3月下旬から4月上旬にかけて、うつむきかげんの淡い紅紫色の花約1万株が斜面一面に満開となり、その可憐な姿を見せてくれます。

この自生地は、市の景観50選の一つで、西側部分の約2,700㎡を昭和59年に市が地権者から土地を借り受け、毎年下草刈りなどの管理を行っています。また、東側部分の約3,900㎡は平成19年に市が取得し、周辺の自然環境とともに一体的な保全に取り組んでいます。



カタクリ自生地で見られる主な草花



ヒロハノアマナ：ユリ科(花期3月中～下)



カタクリ：ユリ科(花期3月下～4月上)

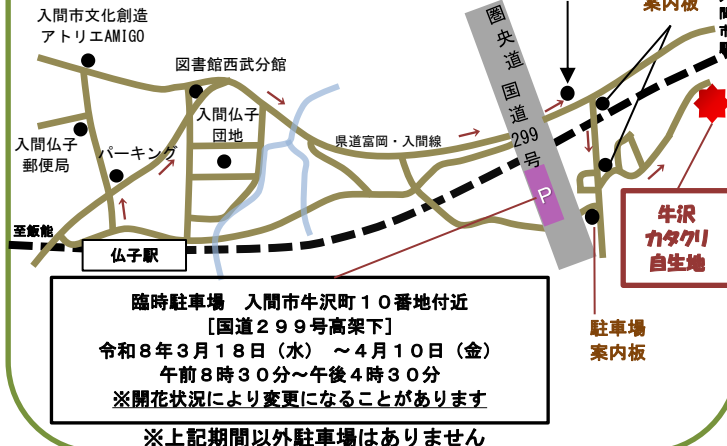


シロボウエンゴサク：ケシ科
(花期3月下～4月)



アズマイチゲ：キンポウゲ科
(花期3月中～下)

■位置図 (入間市牛沢町)



■交通のご案内

○入間市コミュニティバスていーろーどの場合

[北コース] 森坂下車 *日曜日運休

- ・上り(市役所方面)

仏子駅発時刻

(8:02 / 8:42 / 11:12 / 12:47 / 14:27 / 15:57)

仏子駅から森坂下バス停まで約4分、下車徒歩約5分

- ・下り(仏子駅方面)

入間市駅発時刻

(8:13 / 8:58 / 10:33 / 12:13 / 13:43 / 15:18)

入間市駅から森坂下バス停まで約15分、下車徒歩約5分

※時刻は令和8年3月現在のものです。

○電車の場合

- ・西武池袋線仏子駅北口下車徒歩約30分

○車の場合

- ・臨時駐車場あり(入間市牛沢町10番地付近：上記位置図参照)

発行 入間市役所 環境経済部 農業振興課
〒358-8511 埼玉県入間市豊岡1-16-1
Tel 04-2964-1111 内線4232・4233
E-mail ir243000@city.iruma.lg.jp
HP <http://www.city.iruma.saitama.jp/>

うしざわ
牛沢
かたくり じせいち
カタクリ自生地

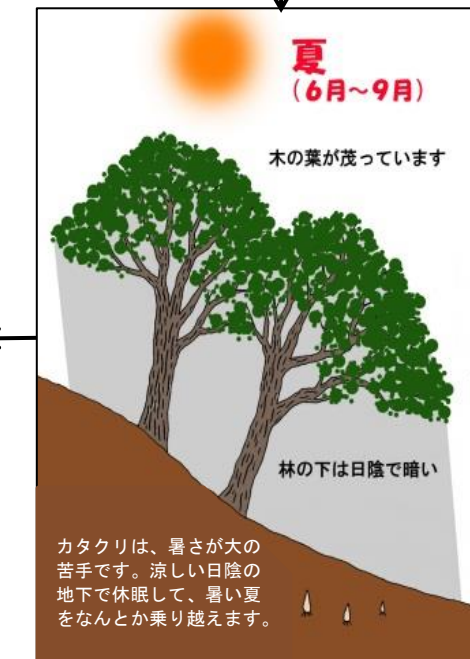
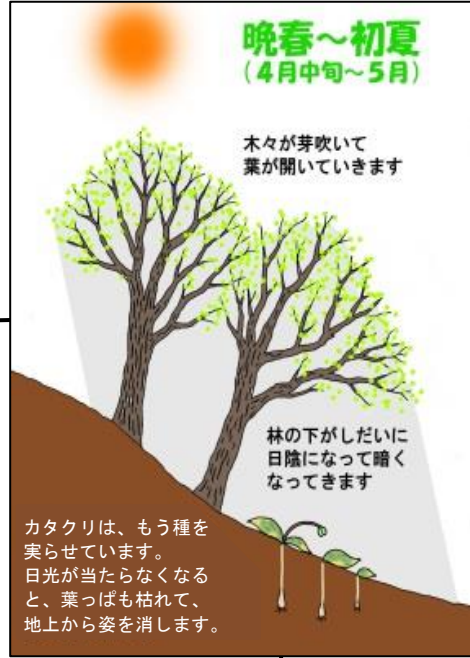


さいたまけん いるまし
埼玉県入間市

入間市マスコットキャラクター
「いるチー」

カタクリの一年

図版作成：入間市博物館アリット



カタクリ(片栗) ユリ科・カタクリ属
分布：北海道、本州、四国、九州
埼玉県レッドデータブック：準絶滅危惧種 (NT)

カタクリは、ユリ科の多年草の植物で、やや湿り気のある雑木林の北斜面に生育しています。2月から3月に地上に姿を現し、3月下旬から4月上旬に淡い紅紫色の花を咲かせ、雑木林が新緑に覆われてくる頃には、種子が熟し葉も枯れて地上から姿を消してしまいます。このように1年のうち、夏、秋、冬は地中で暮らし、次の春まで長い休眠生活を送る植物を『スプリング・エフェメラル(春のはかない命)』といいます。

カタクリの種子には蟻(アリ)の好む匂いのする物質(エライオソーム)がついています。蟻は5月頃に種子を運んだ後、エライオソームを切り取り、種子本体は巣の外に捨てます。この捨てた種子が翌年の春に発芽し子葉となり、春が終わると枯れます。この子葉は毎年春が来るたびに葉を1枚出して光合成を行い、地下の球根(鱗茎・りんけい)に少しずつ養分を貯えて成長していきます。そして養分が十分に貯えられるとようやく本葉を2枚出して花を咲かせます。この間は早いものでも7～8年の歳月がかかります。

カタクリの名のとおり球根(鱗茎)から良質のでんぷん(片栗粉)が取れ、昔は里山の生活と深く結びついていました(現在の片栗粉はジャガイモが原料)。

しかし、日本各地で開発による自生地の消滅、さらに盗掘や踏み付けなどによりカタクリの群生できる自然環境は年々減少しています。

(入間市博物館アリット解説リーフレットより)

